

大鹿村中央構造線博物館たより 86号



2016年7月発行

TEL&FAX: (0265) 39-2205 E-mail: mtl-muse@osk.janis.or.jp

「秋葉古道ウォーキング」に参加しました

2016年6月26日(日)に「秋葉古道ウォーキング」(NPO 法人あんじゃねっと大鹿主催)に参加しました。国道152号大栗橋上をスタートし、中央構造線をまたぎ、新居地区、権現森、中峰集落を通り、するぎ農園まで、子供たちも最後まで元気良く歩き通し、全員無事ゴールできました。

ゴール地点の物見櫓の近くで昼食をいただいているときに、秋葉古道の整備をしてくださっている「秋葉古道歩き隊」メンバーの大橋さんから、「この近くが変わったものがあり、ときどき人がやって来て何かを観測している」という情報がありました。早速現場を案内していただいたところ、花崗岩質の標石が見つかりました。側面に「磁気」と彫ってあり、緯度経度から国土地理院の一等磁気点「飯田」であることがわかりました。

地球は巨大な磁石であり、それによって生じる磁場のことを地磁気といいます。地磁気の大きさと方向は、場所によって異なり、また、長い間でゆっくり変化します。国土地理院は、全国の地磁気分布の数年単位の変化を調べるため、一等磁気点を全国に約100か所設置して、1990年代までは、3~5年の周期で、繰り返し観測をしていたそうです。しかしながら、現在では、自動で連続的に観測できる施設を全国11か所に設置したため、連続観測装置の空白域をカバーする13点に限って観測を続けているそうです。一等磁気点「飯田」は、この13点には含まれないため、1991年を最

後に観測していないとのことですが、今後も観測を実施する可能性はあるとのことです。（宮崎）



磁気点の標石と測定機器の三脚を乗せるための黒杭



側面に「磁気」の文字が見える

先月号の「植物検定」解答

キタダケソウは先月の博物館たよりの左側の写真でした。葉っぱの先に丸みのあるのが特徴です(写真下左)。ちなみに右側の写真はハクサンイチゲでした。

ちなみにチョウノスケソウ(写真下右)もキタダケソウに似ていて紛らわしいですが、葉っぱが小さくて濃い緑色をしています。



キタダケソウの葉



チョウノスケソウ

◆博物館の今後の行事予定

2016年8月6～7日に「大鹿ジオツアー」開催予定。好評につき残席僅少。